



2015年1月20日

スマートフォンやタブレット端末を業務で使用するケアマネジャーは約3割！
「ケアマネジャーのデジタルデバイス活用に関する調査」結果を発表

インターネット検索やアプリの活用など、その手軽さと利便性の高さから、スマートフォンやタブレット端末を業務に活用するケアマネジャーは増えつつあるようです。

介護関連メディア事業を手掛ける株式会社インターネットインフィニティ（本社：東京都中央区、代表取締役社長：別宮 圭一）は、運営するウェブサイト「ケアマネジメント・オンライン」において、会員のケアマネジャーが実際にどのようなデジタルデバイスを活用しているのか、調査を行いました。

■ 調査結果ポイント ■

- スマートフォンやタブレット端末を業務で利用しているケアマネジャーは約3割
- スマートフォンやタブレット端末を利用している人のうち、業務でアプリを活用している人は約4割
- ケアマネジャーが最も必要としているのは「病気や薬を調べられるアプリ」

【調査概要】

期 間：2014年12月17日～12月22日

方 法：インターネット調査

対 象：「ケアマネジメント・オンライン」の会員ケアマネジャー

回答数：615名

■ 調査結果詳細 ■

○ スマートフォンやタブレット端末を業務で利用しているケアマネジャーは約3割

業務で使用している情報端末についてたずねたところ（複数回答）、最も多かったのが「パソコン」の604名（98.2%）で、次いで「従来の携帯電話」が182名（29.6%）でした。

「スマートフォン」あるいは「タブレット端末」と答えた人は、それぞれ120名（19.6%）、72名（11.7%）でした。

○ スマートフォンやタブレット端末を利用している人のうち、業務でアプリを活用している人は約4割

スマートフォンやタブレット端末を使用しているケアマネジャー164名のうち、何らかのアプリをダウンロードしたことがある人は147名でした。

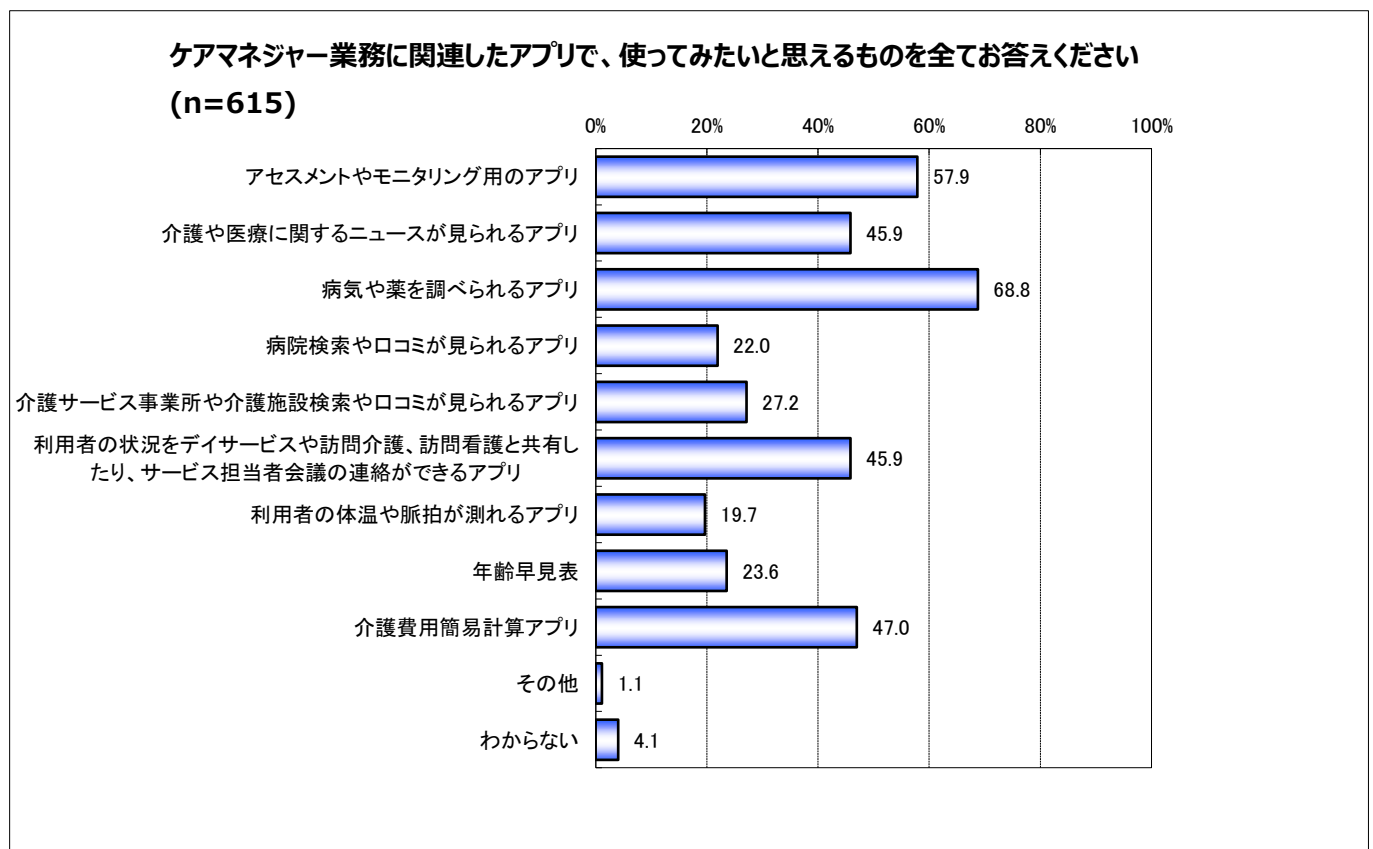
そのうち、アプリをケアマネジャー業務に活用している人は70名で、スマートフォンやタブレット端末使用者の42.6%が業務に関わるアプリをダウンロードして活用していることがわかりました。



○ ケアマネジャーが最も必要としているのは「病気や薬を調べられるアプリ」

業務で使用しているアプリで最も多かったのは「病気や薬を調べられるアプリ」で、アプリ利用者の約 6 割にのぼりました。また、回答者全員に行った「業務に関連したアプリで使ってみたいものは何か」という質問でも、最も多かったのが「病気や薬を調べられるアプリ」（423 名、68.8%）でした。

「病気や薬を調べられるアプリ」は、ケアマネジャーが最も必要としているアプリといえそうです。



<株式会社インターネットインフィニティーについて>

当社は、革新と創造による限りない挑戦で生まれる新たな知恵と感動を共有する事で、社員一人ひとりが"プロフェッショナル"へと成長し、やがて介護業界に改革を起こす"存在意義のある会社"を目指しています。

「日本の介護を幸せなものにする」という経営理念を掲げ、インターネットと介護を融合することにより、次代の介護の在り方や新たな価値を創造し、今日よりも価値ある介護を明日の日本へ提案し続けています。2001 年設立。 <http://iif.jp>

■■■ ニュースリリース及びサービスに関するお問合せ先 ■■■

株式会社インターネットインフィニティー i-CARE 事業部（担当：小椋）

TEL:03-5148-2391/FAX:03-5148-2397 Mail : jogura@iif.jp